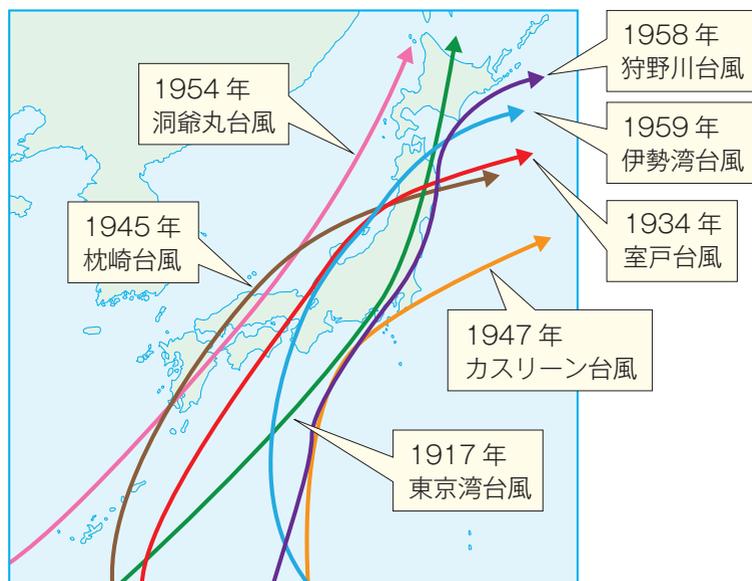


日本に大きな被害をもたらした台風

過去には猛烈な台風が日本に上陸して、大きな被害をもたらしたことが数多くあります。とくに室戸台風・枕崎台風・伊勢湾台風は、上陸したときの気圧が低く、昭和の三大台風と呼ばれています。

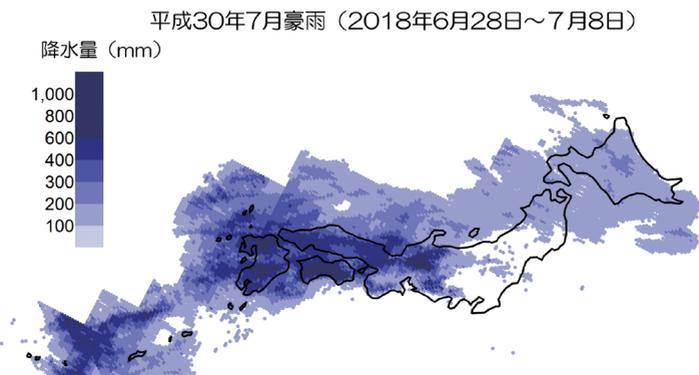
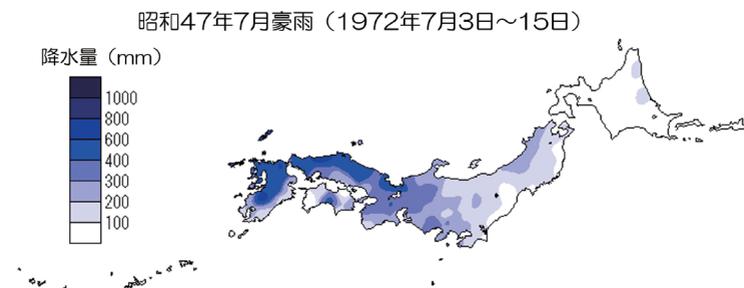


日本に大きな被害をもたらした過去の台風の経路

台風の名前	日付	死者・行方不明者数	主な被害
東京湾台風	1917年10月1日	1324人 ⁷	東京湾で高潮
室戸台風	1934年9月21日	3036人 ⁸	大阪で木造建物が倒壊
枕崎台風	1945年9月17日	3756人 ⁸	終戦直後の広島が被災
カスリーン台風	1947年9月15日	1930人 ⁸	北関東で記録的な大雨
洞爺丸台風	1954年9月26日	1761人 ⁸	函館沖で客船が沈没
狩野川台風	1958年9月26日	1269人 ⁸	伊豆半島で河川が氾濫
伊勢湾台風	1959年9月26日	5098人 ⁸	伊勢湾で高潮

繰り返す西日本広域水害

梅雨前線が停滞すると、西日本の広い範囲に大雨が降ることがあります。昭和47年7月豪雨（1972年）や平成30年7月豪雨（2018年）がその例です。



昭和47年7月豪雨の期間降水量⁹、および平成30年7月豪雨の期間降水量（「解析雨量」より作図）。

被害の比較

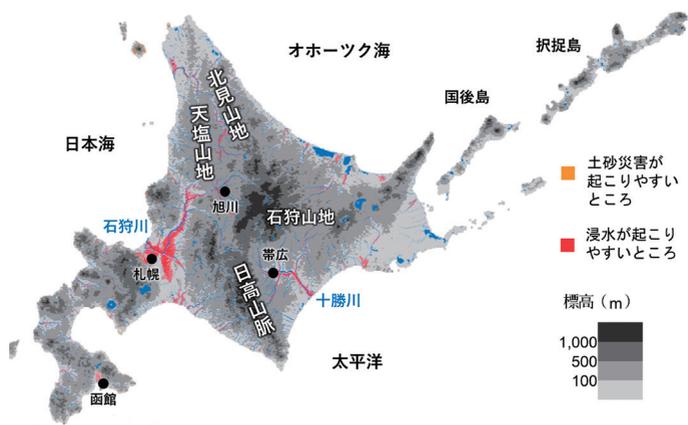
	昭和47年7月豪雨 ⁹	平成30年7月豪雨 ¹⁰
死者・行方不明者	447人	245人
全壊家屋	2977軒	6767軒
床上浸水	5万5537軒	7173軒

北海道



DATA	
道の木/道の花	・エゾマツ/ハマナス
道庁所在地	・札幌市
面積	・83424 km ² (1位)
人口	・532万人 (8位) ¹⁾
主な日本一	・じゃがいもの生産量 ²⁾ ・乳製品の出荷額 ³⁾ ・人口あたりの コンビニエンスストア数 ⁴⁾

北海道は低気圧がよく通る場所であり、発達した低気圧による強風で、家屋の倒壊、船の沈没、火災、吹雪などの災害が起こりやすいところです。また台風の通過によって大雨が降ることもあります。北海道の中央部には北見山地や日高山脈があって、冬には日本海側でたくさんの雪が降りますが、太平洋側ではそれほどでもありません。内陸部の冷えこみはきびしく、最低気温が-10℃以下になる地域があります。



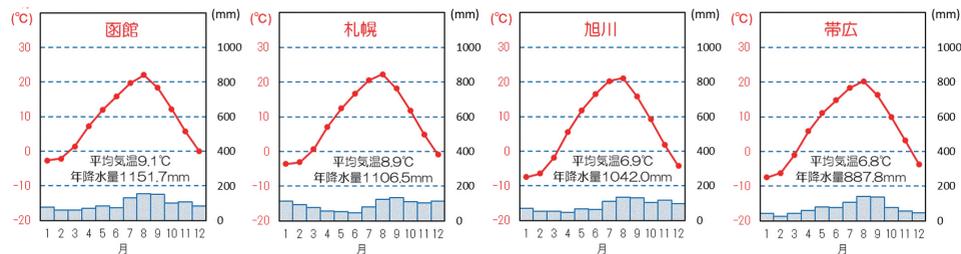
土砂災害が
起こりやすい
ところ

浸水が起こり
やすいところ

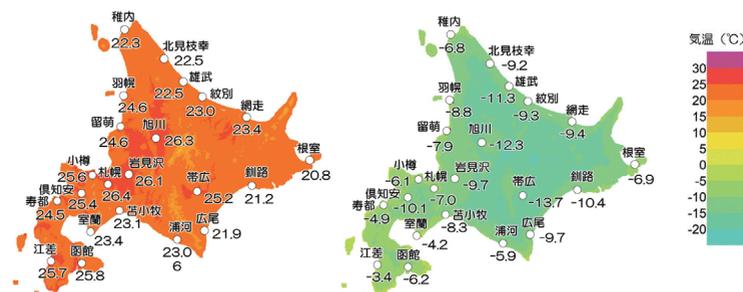
標高 (m)

1,000
500
100

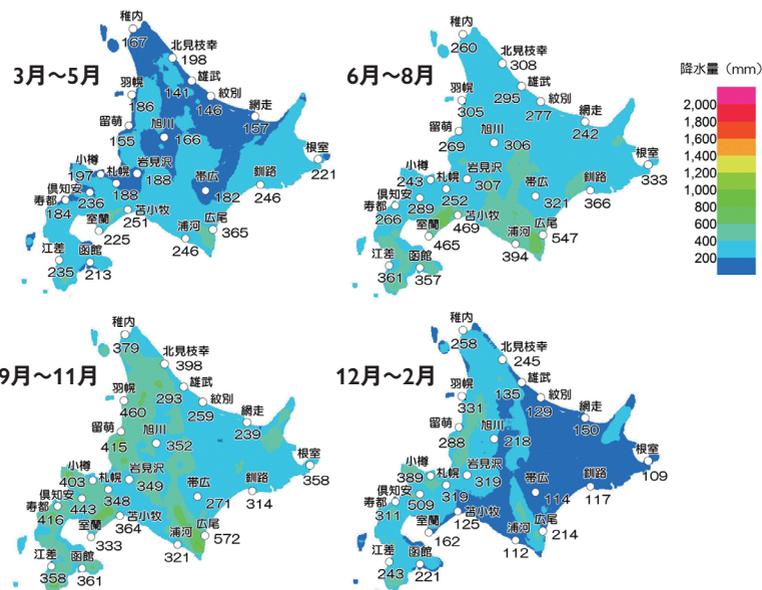
主な地点の気温と降水量



日最高気温 (8月の平均) と日最低気温 (1月の平均)



季節ごとの降水量の平年値



8月の最高気温は札幌周辺でもっとも高く (26.4℃)、1月の最低気温は帯広周辺でもっとも低くなります (-13.7℃)。降水量は夏 (6~8月) や秋 (9~11月) に多く、日本海側では冬 (12~2月) に雪が多く降ります。

気象災害の歴史

台風や豪雪によって大きな被害を受けています。とくに1947(昭和22)年から1948(昭和23)年にかけてカスリーン台風、アイオン台風という2つの大型台風が相次いで上陸し、北上川が氾濫してたくさんの犠牲者が出ました。

年月日	災害種別	死者・行方不明者数	被災地	概要
1944年 3月10日～12日	大雪	164	岩泉町 宮古市	低気圧の通過によって岩手県沿岸で大雪となり、雪によるものとしては最大級の被害が出た。死者の大部分は北部山間地および沿岸地方の製炭夫であった。
1947年 9月15日～16日	暴風雨	212	全県	カスリーン台風の通過により、各河川とも大出水となり、いまだかつてない大水害となった。
PICK UP 📌 1948年 9月15日～17日	暴風雨	709	一関市 宮古市 ほか	アイオン台風の接近により、ものすごい豪雨となり、前年のカスリーン台風を上回る大水害となった。とくに一関市では再び濁流に襲われ、多くの死者を出した。
1959年 9月26日～27日	暴風雨	29	全県	伊勢湾台風が衰えながら日本海を北上し、27日朝には秋田県の西方海上に達した。岩手県では大船渡沖でサンマ船が沈没するなどの被害が出た。
1963年 1月6日～7日	豪雪	11	県北	6日から7日朝にかけて降った雪により、県北地方で電線着雪による通信線・送電線などの切断被害が多発し、列車やバスなどの交通機関が混乱。また雪崩や吹雪により犠牲者が出た。
2016年 8月30日	豪雨	23	県東部	強い勢力を保ったまま台風が大船渡市付近に上陸した。台風が東北地方の太平洋側に上陸したのは1951年の統計開始以降、初めて。河川の氾濫により多くの人命が失われた。

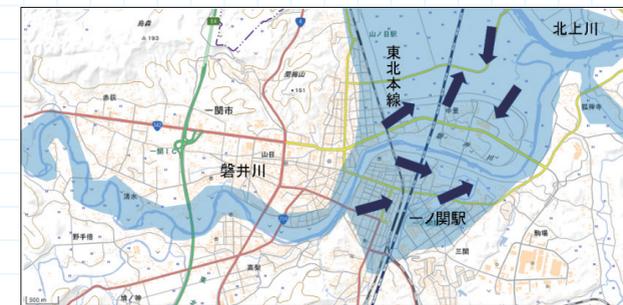
“ 機関車を転覆させた水の勢い ”

1948年のアイオン台風

1 948(昭和23)年9月10日に発生したアイオン台風は、猛烈な勢力で房総半島に上陸し、9月17日には三陸沖へと駆け抜けました。岩手県では16日午後から夜にかけて大雨となり、県内では死者・行方不明者が709人にも上りました。

とくに一関市では、^{いわい}磐井川があふれて市街地を襲い、大きな被害になりました。水の勢いはすさまじく、一ノ関駅では機関車が転覆してしまうほどでした²⁵。生存者によると、「濁流は2階まで押し寄せてきました。ものすごい流れが家を押しつぶす。ぐらぐらと来たと思った瞬間、私たちの身体がぶつかり合い家はもろくも崩れ流れの中へ。泣き叫ぶ子供の声。子を探す親の声。濁流の中に落ちていく悲痛な叫び。それはまるで生き地獄そのものでした」といいます²⁷。

この被害を受けて、磐井川と北上川の改修が行なわれました。磐井川では、堤防が築かれ、川幅が広がり、蛇行していた河道がまっすぐになりました。また北上川の水が逆流するのを防ぐため、遊水地がつけられました。これらの工事には50年以上の年月がかかりました。



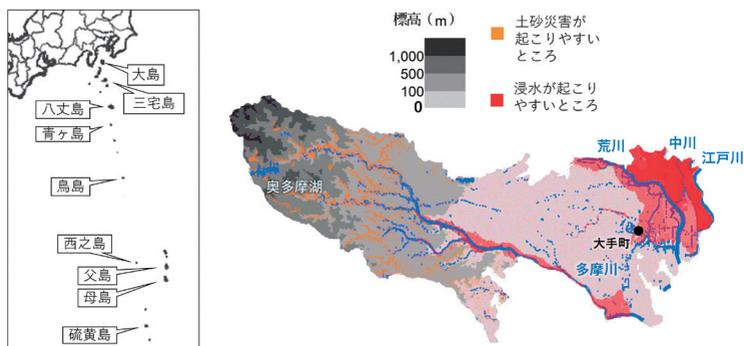
アイオン台風によって浸水した範囲(水色)と水の流れ(矢印)。背景は地理院地図。内田(1988)²⁶に基づき作成した(国土地理院「地理院地図」に加筆)。

東京都



DATA	
都の木／都の花	・イチヨウ／ソメイヨシノ
都庁所在地	・新宿区
面積	・2194 km ² (45位)
人口	・1372万人 (1位) ¹⁾
主な日本一	・人口密度 ¹⁾ ・第三次産業従業者数 ¹⁾

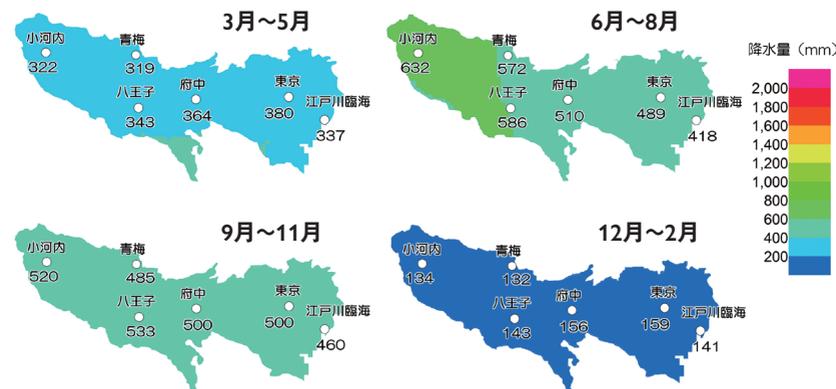
東京都の人口は1372万人で、そのうち176万人が海面よりも低い、いわゆる海拔ゼロメートル地帯に住んでいます。海拔ゼロメートル地帯で浸水が起これば、水の深さが数メートル以上にもなるおそれがあり、大きな被害が出る可能性があります。大島や八丈島は23区に比べて降水量が多く、とくに八丈島では2倍近い降水量が観測されます。一方、父島は23区よりも降水量が少なく、1年を通して温暖な気候です。



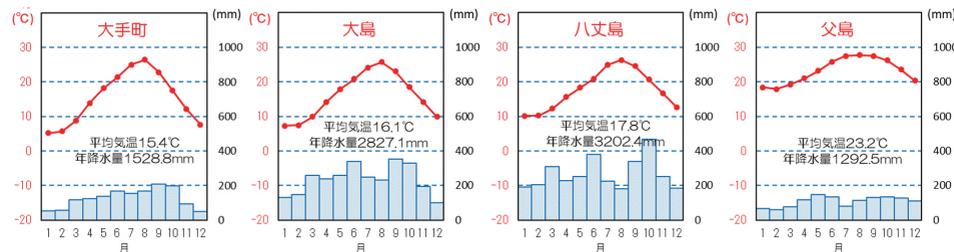
日最高気温(8月の平均)と日最低気温(1月の平均)



季節ごとの降水量の平年値



主な地点の気温と降水量



東京都区部・多摩地区では、8月の最高気温は府中周辺でもっとも高く(31.4℃)、1月の最低気温は小河内周辺でもっとも低くなります(-2.7℃)。降水量は夏(6~8月)に多く、冬(12~2月)には非常に少なくなります。